

看護技術の指導時に用いているオノマトペ

— 診療援助技術の指導に焦点をあてて —

林 暁子¹⁾, 永田 佳子¹⁾, 大津 廣子²⁾

1) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科

2) 鈴鹿医療科学大学

研究報告

看護技術の指導時に用いているオノマトペ

— 診療援助技術の指導に焦点をあてて —

林 暁子¹⁾, 永田 佳子¹⁾, 大津 廣子²⁾

1) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科

2) 鈴鹿医療科学大学

キーワード： 看護技術指導, 診療援助技術, オノマトペ

要 旨

看護教員が診療援助技術の指導に用いているオノマトペの実態を明らかにする目的で、同意が得られた332名の看護教員を対象に、診療援助技術の要素行動(30項目)について具体的なイメージを想起させるオノマトペを回答する質問紙調査を実施した。診療援助技術の指導では、すばやく、静かにものごとを行うさまを表す「すっ(すーっ)」や、注意深く動いたり扱ったりするさまを表す「そっ(そーっ)」が多く用いられていた。診療援助技術の指導は、安楽性や正確性、安全性を重視しイメージができるようなオノマトペを用いて指導を行っていると考えられた。

1. 緒言

看護基礎教育における看護技術は、学内演習という授業形態により展開されていることが多く、学習者に看護技術の動作を見せるために、教員が演示（デモンストレーション）をして指導する方法がよく用いられている。教員による演示は、視覚的指導であり学習者の学習意欲を刺激するが、黙って動作を見せるのみでは効果は少なく、指導内容を容易に伝達することのできる言語的指導（以下、指導言語という）を用いてこそ、効果的な演示といえる。

指導言語は、教員と学習者間に行われる相互作用であり、看護技術の演示や指導をより効果的にするためには、学習者が動作のイメージを鮮明に描くことができる言語表現を用いることが重要であり、看護以外の分野では動きとイメージを結びつける言葉としてオノマトペが使用されることが多い¹⁾。

オノマトペは、古代ギリシア語オノマトポイア（onomatopoiia）を語源とした擬音語・擬態語の総称であり、日常の言語生活の様々な場面において多用されている。例えば、「硬く、水滴が落ちない程度に強く雑巾を絞る」様子を、「ぎゅっと強く雑巾を絞る」のようにかなり強く力を入れてしぼりあげるさまを表すオノマトペ「ぎゅっ」を用いることで、その様子や状態を言葉で説明するよりも端的に伝え、様子をイメージし易いように伝えることができることから日常的に用いられている。擬音語や擬態語は再認識率が高く、生き生きしたイメージの評定も高く、感覚や心情に響き、情動を喚起させる語であり²⁾、オノマトペを用いることで話し手と聞き手が同じイメージを持つことを可能にし、言葉を多く用いて説明するよりも印象に残ると考えられる。運動・スポーツ領域では、スポーツの複雑な動作や微妙なニュアンスを伝える手段としてオノマトペを用いており³⁾、運動のコツを表現する際にオノマトペが用いられており、スポーツオノマトペは運動者の運動技能の学習と遂行に向いていることから、指導の際にも効果的な教示法として活用されている⁴⁾。このように、オノマトペは、技能や技術の指導に有効であると考えられている。さらに、看護基礎教育におけるオノマトペについて大津は、寝衣交換技術の演示時にオノマ

トペを用いることにより、学習効果が高まり、オノマトペには感覚的な印象を表し、複雑な内容や微妙なニュアンスも自由表現でき、動作表現の機能があることから、視覚的情報を補完する指導言語としてオノマトペを用いた指導言語の教示は有効であると述べている⁵⁾。

看護技術は、一般的に生活援助技術と診療援助技術に区分され、診療援助技術は、看護技術の中でも患者に対し身体侵襲を伴う技術を含み、巧緻性の高い技術と考えられている。そのため、診療援助技術は、解剖生理や病態を学習した上でその技術の根拠を理解し手技を習得する必要があり、これらのことを踏まえた指導がもたらされている。また、身体侵襲を伴う技術として、感染対策を含む安全対策への配慮が欠かせない看護技術でもある。基礎看護教育における診療援助技術の指導はこのような安全面への配慮とともに手先の繊細な動きや無駄のない動きを含めた技術指導が必要となる。そこで、本論文では、診療援助の指導に有効なオノマトペを抽出するために、分析・検討を行ったので報告する。

2. 研究目的

看護教員が診療援助技術の指導に用いているオノマトペの実態を明らかにし、診療援助技術の指導に有効なオノマトペについて検討する。

3. 用語の定義

オノマトペ：擬音語、擬声語、擬態語の総称

診療援助技術：治療、検査など診療に必要な看護技術のこと。

傷病者の援助、感染予防技術、採血、与薬、酸素投与、吸痰、経管栄養法、導尿、浣腸、バイタルサイン測定などの看護技術をさす。

要素行動：援助の一連の流れの中で物事を成り立たせている行動

4. 研究方法

1) 研究対象

全国の看護系大学および看護専門学校より、無作為に抽出した 717 校において看護技術を指導・教育している 1434 名を対象とした。

2) 調査期間

令和 2 年 11 月～令和 3 年 1 月

3) データ収集方法

調査は、研究者間で作成した無記名自記式質問紙を用いて実施し、調査用紙の配布・回収は、個人情報保護契約を取り交わしたアンケート調査会社（バルク）へ委託した。

調査用紙の構成は、対象者の基本属性として、教員の年齢、性別、所属機関、看護教員経験年数の項目を設定した。講義や演習の場面で、技術指導や手技の説明をする際に用いているオノマトペについて回答を得るために、診療援助技術の要素行動を調査項目とした。診療援助技術の要素行動は、演示する際に学生に対して視覚的情報を補完する必要性がある動作について、看護基礎教育で一般的に使用されている『基礎看護技術』⁶⁾『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術』⁷⁾等複数の看護技術のテキストを参考に研究者間で精査し、30 項目を抽出した。抽出した要素行動について、学生がイメージしにくいであろう動作に下線をつけ、その動作を学生に指導する場合に、どのようなオノマトペを用いているかについて調査した。さらに、看護系大学で基礎看護技術を担当している教員 3 名に依頼しプレテストを行い、内容妥当性の確認と、質問紙全体の構成の確認を行った。

4) 分析方法

基本属性の単純集計と診療援助技術の要素行動 30

項目の指導に用いているオノマトペについて、SPSS Text Analytics for Surveys Ver.4 を用いて分析し、抽出したオノマトペは、『オノマトペ辞典』⁸⁾で類語を整理した。

5) 倫理的配慮

調査対象者には、調査依頼文書に研究目的、方法、調査への参加は自由意志であること、調査用紙は匿名性を保証すること、学会等での結果の公表について記載し、返信をもって調査に同意を得ることとした。本研究は、鈴鹿医療科学大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：443）を得て実施した。

5. 結果

1) 対象者の属性

質問紙は 1434 部配布し 332 部を回収した（回収率 23.2%）。有効回答 332 部を分析対象とした。属性の結果は表 1 に示した。対象者の平均年齢は 48.0 歳（SD 7.5）、教員経験年数の平均は 11.0 年（SD 7.5）であった。

2) 診療援助技術の指導に用いられるオノマトペ

診療援助技術の指導時にオノマトペを用いた指導経験は、「ある」78.9%、「ない」6.3%、「わからない」9.3%、無回答 5.4%であった。

診療援助技術の要素行動 30 項目全体で、教員が指導に用いているオノマトペは 279 種類、総数 4941 語であり、用いられているオノマトペは、「すっ（以下、「すーっ」を含む）」793 語、「そっ（以下、「そーっ」を含む）」692 語、「ぴったり」445 語、「しっかり」331 語、「ゆっくり」299 語などが多かった。上位 10 語を図 1 に示す。

教員が何らかのオノマトペを用いて指導している要素行動についてみてみると、【3 皮膚からテープをはがす】を指導する際にオノマトペを用いている教員は 246 人（74.1%）と最も多く、「そっ」「ゆっくり」「そろそろ」などが用いられていた。次に、【8 刺入部に消毒用アルコール

ル綿を軽くあて、針をそのままの角度で抜く】には、214人（64.5%）の教員がオノマトペを用いて指導しており、「すっ」「さっ」「とっ」などが用いられていた。続いて、【25 体温測定は、体温計を腋窩に挿入し腋窩を密着させる】212人（63.9%）、「びったり」「しっかり」「ぎゅっ」が用いられていた。診療援助技術の要素行動にオノマトペを用いる教員数と用いられるオノマトペ上位3語を表2に示した。

6. 考 察

1) 診療援助技術の指導に用いられるオノマトペ

診療援助技術の指導において、多くのオノマトペが用いられていた。中でも、すばやく静かにものごとを行うさま⁹⁾「すっ」、注意深く静かに行動するさま¹⁰⁾「そっ」が多く、診療援助技術の指導では、相手に気づかれないように行動するさまを表すオノマトペが多く用いられていることが明らかとなった。このことは、患者にとって診療援助技術は治療行為を含め非日常の行為であり、援助に対し不安や恐怖を感じることも多く、看護師は患者の不安や恐怖を少しでも軽減し、安全で安楽な援助を提供する必要があることから、対象者に気づかれないように静かに動作をするさまを表す「すっ」や「そっ」が多く用いられていると考えられる。また、「すっ」や「そっ」は、

「っ」で終わる促音で音や動作・状況などがあるところで瞬間的な区切りが付く¹¹⁾ということを表現し、ある一定の動作を継続してもその動作を瞬時に切り上げる様子を表し、すばやさを表している。つまり、診療援助技術の指導では相手に気づかれず、注意深く速やかに行うことをイメージしたこれらのオノマトペが用いられていると考えられた。

表1 属性

		n=332	
	属性	人数	(%)
年代	20代	1	(0.3)
	30代	41	(12.3)
	40代	131	(39.5)
	50代	128	(38.6)
	60代	19	(5.7)
	無回答	12	(3.6)
性別	男性	11	(3.3)
	女性	314	(94.6)
	無回答	7	(2.1)
所属機関	専門学校	214	(64.5)
	短期大学	8	(2.4)
	看護系大学	103	(31.0)
	無回答	7	(2.1)
教員経験年数	1年未満	4	(1.2)
	1～5年未満	73	(22.0)
	5～10年未満	75	(22.6)
	10～15年未満	70	(21.1)
	15～20年未満	47	(14.2)
	20年以上	53	(15.9)
	無回答	10	(3.0)

記述統計の結果である。

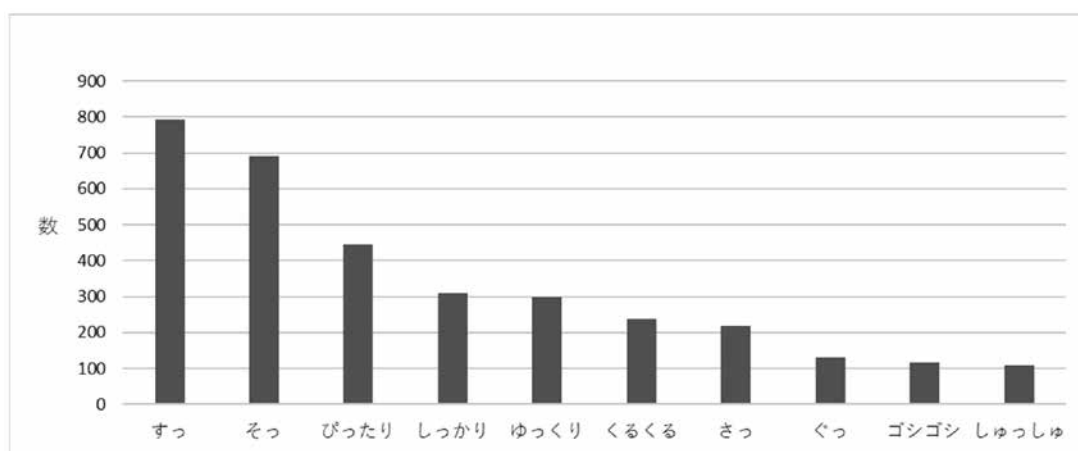


図1 診療援助技術の指導に用いられているオノマトペ

本研究において回答のあった全オノマトペの上位10位までを示した図である。縦軸は総数を示している。

表2 オノマトペを用いて指導している教員数と用いているオノマトペ（診療援助技術）

番号	項目	教員数 (%)	用いているオノマトペ (%)		
			そっ	ゆっくり	そろそろ
3	皮膚からテープをはがす。	246 (74.1)	そっ (45.4)	ゆっくり (9.3)	そろそろ (2.1)
8	刺入部に消毒用アルコール綿を軽くあて、針をそのままの角度で抜く。	214 (64.5)	すっ (42.1)	さっ (11.1)	とっ (4.5)
25	体温測定は、体温計を腋窩に挿入し腋窩を密着させる。	212 (63.9)	ぴったり (52.4)	しっかり (4.2)	ぎゅっ (3.9)
1	両手を組み、指と指との間を擦り合わせて洗う。	205 (61.7)	ゴシゴシ (34.6)	すりすり (9.9)	しっかり (5.12)
19	浣腸液注入後、トイレットペーパーを肛門周辺にあてて、カテーテルを抜く。	193 (58.1)	すっ (26.8)	そっ (11.7)	さっ (9.0)
28	利き手で送気球を操作し、一定のリズムでマンシエットに送気する。	184 (55.4)	しゅっしゅ (29.8)	しゅ (8.4)	しゅぼしゅぼ (4.2)
6	注射部位を消毒用アルコール綿で、中心から外側に円を描くように消毒する。	183 (55.1)	くるくる (33.7)	ぐるぐる (8.1)	しっかり (4.5)
4	手袋をガウンの手首部分を覆うように装着する。	179 (53.9)	ぴったり (28.3)	しっかり (10.8)	ぴったり (2.1)
23	抜針する時にアルコール綿を刺入部位に当て、抜針する。	178 (53.6)	すっ (29.5)	さっ (14.2)	そっ (5.1)
2	リーダーの合図で担架に傷病者を降ろす。	176 (53.0)	そっ (35.2)	ゆっくり (6.0)	さっ (3.0)
9	注射針を溶解液バイアルのゴム栓に垂直に穿刺する。	175 (52.7)	すっ (13.2)	ぶすっ (9.3)	まっすぐ (8.1)
24	抜針後は、刺入部位に手掌を当てマッサージする。	173 (52.1)	もみもみ (17.8)	くるくる (9.0)	もむ (5.1)
12	吸引カテーテルを回転させながら吸引する。	165 (49.7)	くるくる (19.2)	ずるずる (6.3)	ゆっくり (2.7)
5	採血では、上肢の内側を上にして肘枕の上に載せ、採血部位を伸展させる。	163 (49.1)	びーん (12.9)	びん (10.5)	しっかり (9.0)
21	注射を実施する時には、適切な刺入部位を探し、針を穿刺する。	163 (49.1)	すっ (29.8)	さっ (4.8)	ちくっ (4.2)
29	血圧測定では、1秒間に2mmHgの一定のペースを保ちながら減圧する。	162 (48.8)	すっ (12.0)	ゆっくり (9.9)	とんとん (7.2)
10	酸素ボンベのバルブを開ける。	160 (48.2)	ぎゅっ (6.3)	きゅっ (6.0)	しゅっ (4.8)
30	聴診器の膜面を、軽く跡がつく程度の圧で上腕動脈に当てる。	160 (48.2)	ぴったり (31.3)	そっ (5.7)	しっかり (4.5)
13	鼻腔から咽頭の生理的湾曲にそって、経管栄養チューブを挿入する。	153 (46.1)	すっ (14.1)	そっ (11.1)	ゆっくり (5.1)
18	浣腸では、右手でカテーテルを持ち患者に口呼吸を促し、カテーテルを挿入する。	153 (46.1)	すっ (17.7)	そっ (11.1)	ゆっくり (8.7)
16	導尿では患者に声をかけてから、患者の陰部をガーゼで拭きとる。	149 (44.9)	そっ (18.6)	さっ (8.1)	すっ (4.8)
14	経管栄養法では、注射器で白湯を注入し、チューブ内の栄養剤を流し込む。	146 (44.0)	すっ (7.8)	さっ (6.0)	ゆっくり (4.8)
7	抗凝固剤入りの採血管で採血後は、5回程度転倒混和する。	144 (43.4)	ゆっくり (9.9)	くるくる (5.7)	そっ (4.2)
22	注射針を刺入部位に穿刺し、利き手でない方の手で内筒を押し、薬液を注入する。	138 (41.6)	ゆっくり (12.7)	すっ (8.7)	そっ (6.6)
26	脈拍測定は、示指、中指、薬指を動脈に当て、軽く圧迫して測定する。	135 (40.7)	そっ (14.8)	ぴったり (11.4)	しっかり (3.3)
27	血圧測定は、マンシエットを上腕周囲に巻く。	135 (40.7)	くるっ (8.4)	ぐるっ (6.6)	しっかり (6.0)
17	男性の導尿は、ガーゼで陰茎を包み示指と拇指で包皮をさげ、陰茎を把持する。	130 (39.2)	そっ (12.6)	しっかり (11.7)	ぐっ (3.6)
20	注射の準備では、注射器内の空気を出し、注射針の先端まで薬液を満たす。	125 (37.7)	すっ (5.7)	そっ (4.8)	とんとん (3.9)
15	女性の導尿は、小陰唇の左右の内側を上から下へと消毒する。	124 (37.3)	すっ (11.7)	そっ (7.8)	さっ (5.1)
11	圧力調整付き流量計の取り付けは、床に対して垂直になるように取り付ける。	121 (36.4)	しっかり (12.6)	ぴったり (4.2)	カチッ (3.3)

回答数の多い順に項目を並べている。教員数は、指導に用いるオノマトペを回答した教員数を示し、()内は総数 (n = 332) を分母とした割合を示している。用いているオノマトペは、回答の多かった順に上位3語を示した。()内は、その項目に回答した教員数を分母とした割合を示している。

また、「ぴったり」や「しっかり」も多く用いられている。「ぴったり」は、すきまなくくっつき合うさまを表し¹²⁾、「しっかり」は、安定している様子や気持ちや意識が強く確かで堅実で信用がおけるさまを表す¹³⁾。診療援助技術

では、身体侵襲を与える技術も多く、ひとつひとつの動作を確かなものとして行動しなくてはならず、その確実なさまを「ぴったり」や「しっかり」といったオノマトペを用いて表現していると考えられた。

2) 診療援助技術の要素行動を指導する際に用いられているオノマトペ

看護技術の指導をする際、教員の演示では動作を示しながらその動作の説明を同時に行う。診療援助技術はひとつひとつの動作（要素行動）の組み合わせで構成され、それらの動作が一連の行動として示されるため動作を止めずに演じることが多い。そのため、多くの言葉を並べて説明するよりもオノマトペを用いて一言で伝えることで、動作と説明のタイミングが一致し、学習者の理解を促すことができると考える。そのため、「すきまができないように腋窩を密着させる」さまを「ぴったりと腋窩を密着させる」と端的に指導することで、学生が動作や状態をイメージしやすくしていると考えられる。同様に、「そっとテープをはがす」と表現することで、皮膚に負担をかけないように注意深く行動することや気づかれずに行動するイメージを伝え、テープをはがす速度や、痛みへの配慮を伝えようとしているのではないかと考えた。また、針の抜針は穿刺角度と同じ角度で針を抜くことで痛みや他の組織への侵襲を予防し、安全に行うことができる。素早く、静かに、物事が進行または変化するさまを「すっ」を用いて、抜針の動作には素早さをイメージしていると考えられた。看護技術の指導では、具体的な部位の指差し確認や解説によって非言語的な情報を用いて学習者に伝え、比喩や例示といった説明を加えることによって、「やって見せること」と「言って聞かせること」とを意図的に同時に行うことで学習効果が得られる¹⁴⁾。また、教員のデモンストレーションは、言葉による説明では理解し難い技術を演じることでよりイメージ化させ、学生の理解を助け技術習得に効果があり¹⁵⁾、学生は教員の演じるデモンストレーションを見学することにより、立体的に臨場感を感じながら看護ケアの実際を学び、初めて学習する技術のスムーズな行動や手技を確認することができる¹⁶⁾と考えられている。しかし、視覚による情報だけでは詳細な力の加減やその動作に込められた配慮を伝えることが難しい。特に、診療援助技術は、学生にとっても非日常の援助行為であり、手技をイメージすることさえも難しい。そこで、オノマトペを用いることで、微妙な力加減やスピードなど

を伝えることを可能にしていると推察できた。

専門職として求められる技術のレベルは、自然に自分の身体が動くようになる「自動化」への段階、つまり技術が身につけている暗黙知の修得でなければならず、そのような技術を習得する第一段階は模倣であり、そのため教員はデモンストレーションを活用し良い見本を見せることが求められる¹⁷⁾とされているが、初学者にとってイメージすることの難しい診療援助技術では、そのデモンストレーションに用いられる言語により視覚が補完され、理解を促すと考える。さらに、オノマトペには印象や記憶に残りやすいことから、技術学習における学生の学びを補助していると考えられる。

7. 研究の限界と今後の課題

本論文は、診療援助技術の指導時に用いているオノマトペに焦点をあて、その実態を調査したものであるが、回収率が低かったことから、看護教員が使用しているオノマトペの実態を十分に把握できたとは言い難い。また、属性との関連についての結果が得られておらず、今後の課題と考える。看護技術の教育は、対象者の反応を見ながら教授することが求められており、教員の指導言語を学生が理解できることが必要である。したがって、教員のイメージと学生のイメージが共有できるオノマトペについて検討することが今後の課題である。

8. 結論

- 1) 診療援助技術の指導では、安楽性や正確性、安全性を重視しイメージができるようなオノマトペが用いられていた。
- 2) 診療援助技術の指導には、何らかのオノマトペが用いられており貼付したテープをはがす動作には「そっ」、抜針動作には「すっ」、腋窩を密着させる動作には「ぴったり」を用いている教員が多かった。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、調査に快く協力していただきました看護教員の皆さまに心から感謝申し上げます。なお、本研究は令和2年度科学研究費助成事業 基盤研究C（課題番号：20K10619 代表者：大津廣子）による助成を受けて行った研究の一部である。

引用文献・参考文献

- 1) 下釜綾子. 身体表現活動におけるオノマトペを用いた動きとイメージ. 長崎女子短期大学紀要. 2012 ; 37 : 78-83.
- 2) 芋阪直行. 擬音語・擬態語の認知科学 感性のこ とばを研究する擬音語・擬態語に読む心のありか 第2版, 新曜社, 東京, p.54-84, 2001.
- 3) 藤野良孝, 井上康生, 吉川政夫, 仁科エミ, 山田恒夫. 運動学習のためのスポーツオノマトペデータベース. 日本教育工学論文誌. 2005 ; 29 : 5-8.
- 4) 吉川政夫. 運動のコツを伝えるスポーツオノマトペ. バイオメカニズム学会誌. 2013 ; 37(4) : 215-220.
- 5) 大津廣子, 中村美起, 林暁子, 三井弘子, 中井三智子. 寝衣交換技術の演示時の指導言語にオノマトペを用いた効果. 鈴鹿医療科学大学紀要. 2018 ; 25 : 59-67.
- 6) 阿曾洋子, 井上智子, 伊部亜紀. 基礎看護技術 第8版, 医学書院, 東京, 2019.
- 7) 深井喜代子. 新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術II 第4版, メヂカルフレンド社, 東京, 2017.
- 8) 小野正弘編. 擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典 第6版, 小学館, 東京, 2020.
- 9) 同8) p.206.
- 10) 同6) p.230.
- 11) 同6) p.23.
- 12) 同6) p.370.
- 13) 同6) p.166.
- 14) 白石知子, 斉藤洋典, 井藤寛志, 大井京, 山本裕二. 看護動作の模擬学習における体験的認知の効果.

認知科学. 2011 ; 18 (2) : 250-271.

- 15) 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子. 教育における授業設計 第4版. 医学書院, 東京, p.121, 2009.
- 16) 林暁子, 大津廣子, 中井三智子, 中村美起, 三井弘子. 教員によるデモンストレーションを取り入れた看護技術演習に対する学生の認識. 鈴鹿医療科学大学紀要. 2016 ; 23 : 65-73.
- 17) 大津廣子, 佐藤美紀, 滝内隆子, 足立みゆき. 学内実習における教員の基礎看護技術の実施状況と指導方法. 愛知県立大学看護学部紀要. 2013 ; 19 : 31-40.

— プロフィール —

林 暁子 鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科・助教 修士（看護学）

〔経歴〕2002年三重大学医学部看護学科卒業, 2002年三重大学医学部附属病院看護部看護師, 2014年三重大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻修了, 2014年より現職。〔専門〕基礎看護学, 看護教育, 看護技術教育。

永田 佳子 鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科・助教 修士（生活福祉文化）

〔経歴〕1992年国立名古屋病院看護助産学校助産科卒業, 1992年国立津病院, 1996年市立伊勢総合病院, 2015年京都ノートルダム女子大学人間科学研究科修士課程修了, 2018年より現職。〔専門〕基礎看護学, 看護管理, 看護技術教育。

大津 廣子 鈴鹿医療科学大学・客員教授 博士（経済学）

〔経歴〕1992年名古屋市立大学大学院経済学研究科修士課程修了, 2001年岐阜大学医学部看護学科教授, 2007年名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得後退学, 2007年愛知県立看護大学看護学部教授, 2015年鈴鹿医療科学大学看護学部特任教授, 2021年より現職。〔専門〕基礎看護学, 看護教育, 看護技術教育。

Onomatopoeia Being Used in Giving Guidance in Nursing Skills

—With the Focus on Giving Guidance in Medical Assistance Skills—

Akiko HAYASHI¹⁾, Yoshiko NAGATA¹⁾, Hiroko OTSU²⁾

1) Faculty of Nursing, Suzuka University of Medical Science

2) Suzuka University of Medical Science

Key words: guidance in nursing skills, medical assistance skills, onomatopoeia

Abstract

The purpose of this study is to clarify an actual status of the use of onomatopoeia when nursing teachers give guidance in medical assistance skills. A questionnaire survey was conducted with the participation of 332 nursing teachers who consented to the survey.

The subjects were asked to identify onomatopoeic words which remind them of concrete images for each of the elemental activities (30 items) related to medical assistance skills.

The result showed that in providing guidance in medical assistance skills, expressions such as “suh or suuh,” which signifies the state of doing something quickly and quietly, or “soh or sooh,” which denotes the state of moving or handling something carefully. The survey suggests that in giving guidance in medical assistance skills, onomatopoeic words are used to help evoke the images of comfort, precision and safety, emphasizing the importance of them.